

C-2 授業実践記録

[2年国語科 だいじなところに気をつけて読もう] 9月21日実施

問題づくりから単元に入り、自分達で授業をつくりあげていこうという意欲が伺えた。教室の掲示物にも前時からの記録が記されており、学習の流れをつかんだ子ども達は、安心して授業に参加していた。

◎導入の工夫 T：これは？（写真提示）

- T：わっと思うことは？
- C：ホンソメワケベラが大きな魚の口に入っている。
 - C：付け加え、大きな魚たち虫をとって食べる。
 - C：大きさが違う。
 - C：ホンソメワケベラにとっては、どちらも大きい。
 - C：付け加え、大きな魚の口に入っていて、虫をとって、それがホンソメワケベラのえさになる。
 - C：とった虫を食べる。
 - C：掃除してくれるのは、季節が分からない。
 - C：おおきな魚は、色も形も違う。
 - C：口に入っていくのが不思議。
 - C：どうして虫がつくのか。

◎課題 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを調べよう。

音読の工夫
自分の速さで
班でまる読み
全員で



- ・プリントを配ります。
- ・（ ）に入れてください。
- ・大きな魚になってお話をします。
- ・どこからそう思ったか教科書に線を引きます。

上手になったね。



◎課題についての話し合い

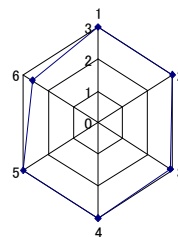
一生懸命 頭使ってるね。

- T：どちらのこともいいです。
- C：いつも口の中を掃除してくれてありがとう。8段落からです。
- C：ホンソメワケベラは掃除をしてくれて助かるな。9段落です。
- C：口の中や体の虫をとってくれてありがとう。
- C：虫をとらせてくれてありがとう。8段落です。
- C：虫をくれてありがとう。9段落です。
- C：8段落です。そうじしてあげようか。そしたらついている虫を食べよう。それは8段落です。
- C：付け加え、そうじしたらエサがあたる。9段落の4行目。
- C：ぼくは、そうじの天才だよ。

◎ふり返り（カードに記入）

◎成果と課題

課題解決につながる話し方・聴き方の訓練がよくされていた。特に分析シート「友達の意見とからめて、自分の意見を発表しているか」については、良好である。さらに、教師の相づちや励ましの言葉、認め言葉が随所に見られ、温かい雰囲気



と子ども達のやる気が融合した場面が随所に見られた。

[4年星 算数科 変わり方を見やすく表そう] 7月8日実施
パソコンを使い、資料や児童の考えがとても分かりやすく提示されていた。グラフをかく作業が確実にスピーディにでき、展開も順調に流れていった。

◎導入の工夫

グラフ用紙を3枚用意し、いろいろなグラフ用紙を使って折れ線グラフをかく。
(どれを使ったら分かりやすくなるか…)という教師の意図がある。

◎ 課題を焦点化し
練り上げる。

気温の変わり方が分かりやすくなる折れ線グラフをかこう

T: どういうところから変わり方が分かりやすい?横に長いのか、縦に長いのかを選んだのかわけを発表してください。
C: 縦のグラフだと分かりにくいし、横なら縦みたいに上っていかんし、縦だと線が上にいくし、横だと水平になるし。
T: 横に広い方が分かりやすい、
C: 縦すぎるとだめだし、横すぎてもだめ、ちょうどいいのを選んだ。
T: 縦すぎてもだめ。
C: 横ならマスが横で分かりにくいし。
T: 傾きがわからんということねんね。
T: まだ他にあるかな。
C: 例えば書きづらい。マスが小さいし、横長の方が書きやすい。
T: 変わり方が分かりやすい。
C: 横の方は横に並んでしまうし、縦の方にしました。
C: いつも使っているのと同じだし、書きやすいし。
C: マスの方が大きくて書きやすい。
C: 細長いものは、マスが太くて書きやすい。



T: ぱっと見たとき、気温の変わり方がわかるのはどれ?
C: 縦
T: なんで縦の方が分かりやすいのかな。
C: 縦の方がマスが小さいから。
C: マス目が横より広いから、
T: 3つ比べて分かりやすいのは縦やね。困ったことにこの機械に入らんげよ。どうしよう。
T: 総合の紙みたいに書いてもらわんと書けないね。
T: どうしたらいいやろ。
C: 切る。途中20℃から始める。C: それいいかも。

◎ふり返り

T: 今書いたグラフと今までのグラフとどんなところ違う?

【短くしたら分か【小さくなったので【省略したのは0か【省略したらマスも大きくなっ
りやすい。】画面にも入る。】ら20になっている。】たし、傾きも分かりやすい。

◎成果と課題

- ・カウンセリングマインドを生かした支援が生きていた。板書のネームプレートで全員を位置づけたことや「なるほど」と児童の意見を受け止める姿勢が良かった。
- ・本時の授業をもとに、課題解決単元計画の形を探った。その中で確認しあったことは、『子ども側にたった課題』を設定する。そのために文末表現については、より具体的に表記することとした。単元全体を通しての課題づくりについて研究がもたれたことは、一歩前進である。

